



1982年慶応義塾大学卒業後、アメリカ銀行に入行。トレーディング業務に従事し、1989年バイスプレジデント。1997年日興証券に移り、1999年日興シティ信託銀行為替資金部次長。2002年金融コンサルティング会社アセンダントを設立、取締役役に就任。

■オートチャーティストとは、

オートチャーティストとは SaxoTraderGO で取引できる商品のチャート分析を自動で行い、確率が高いと考えられる売買戦略を表示する取引支援ツールです。チャート分析はテクニカル分析でも最も基本かつ重要なチャートパターン（各種の反転、継続パターン）、キーレベルパターン（トレンドライン）、フィボナッチパターン（リトレースメント等）が完成した場合、あるいは形成中に一覧表示されます。一覧表示では、各種パターンの詳細、取引を行う場合のターゲット等の情報が表示され、表示する情報をフィルターで絞り込むことが可能です。この売買戦略レポートでは、この一覧表示の中から翌週にも有効と考えられる通貨ペアを毎週3通貨ペア、ピックアップしていくこととします。

- [10分でできるオートチャーティスト・クイックマニュアル](#)
- [オートチャーティスト・完全ガイド](#)
- [オートチャーティスト・チャートパターン分析入門](#)

■先週のレビュー

まず、先週のストラテジの振り返りです。

（1）NZDUSDの買い（シグナル点灯4月4日）TP=0.7362、SL=0.7195

先週執筆時点のレートが0.73047、その後のレンジは0.72407～0.73777と5日の執筆時点からいったんは0.72台へ下がったものの、それまでのレジスタンスがサポートとなり反発、その後は底固めして順調にNZドルが上昇する動きとなりました。10日のNY市場でTPの水準に到達しましたので57.3pipsの利益となります。

（2）USDSGDの買い（シグナル点灯4月4日）TP=1.3181、SL=1.3053

先週執筆時点のレートが1.31255、その後のレンジは1.30753～1.31845と翌6日のNY市場で早々にTPの水準に到達しました。先週のレポートに書いた通りですが、NZDとSGDではドルの方向性が逆でドルとしての動きを吸収したアジア通貨クロスを目論みました。こちらは

55.5pips の利益となりましたが、異なる方向でそれぞれ 50pips 以上の利益が出ましたので、この目論見は成功したと言えます。

(3) USDDKK の買い (シグナル点灯 4 月 3 日) TP=6.1061、SL=6.0382

先週執筆時点のレートが 6.06591、その後のレンジは 6.00479~6.08561 と、当初こそ上昇が先行したものの、その後はじり安へと転じ 10 日欧州市場で SL に到達、残念ながら初登場の DKK での取引は失敗に終わりました。277.1pips の損失となりましたが、DKK の場合大台が大きい (6 台) こともありますので、3 通貨ペアのトータルではプラスです。損益をドルで考えると、NZDUSD+57.3pips、USDSGD は+42.1pips、USDDKK は-45.9pips ですから、合計では+53.5pips (ドル換算) となります。

■それまでのレジスタンスがサポート

今週はテクニカル分析の基礎となるサポートとレジスタンスの話をしましょう。まず定義ですが、サポートは以前の安値、レジスタンスは以前の高値です。そして安値どうしを結んだラインがサポートライン、高値どうしを結んだラインがレジスタンスラインとなります。通常、サポートラインは右肩上がり、レジスタンスラインは右肩下がりと先週の NZDUSD で出てきたトライアングルは最も説明に適したパターンとなります。

今一度先週の NZDUSD の 4 時間足のその後の値動きを見てください。



トライアングルの上抜けによる上昇期待ですが、その後いったん下押しし今週のレビューでは「それまでのレジスタンスがサポート」という表現を使いました。これはピンクの丸で囲った部分を意味します。レジスタンスを上抜けたことでそれまでのレジスタンスが、今度はサポートと

なって下値追いを止めていることがわかります。こうしたレジスタンスの上抜けでは同ラインがサポートとなりやすく、逆にサポートの下抜けの場合には、同ラインがレジスタンスとなりやすい、ということは覚えておくといよいと思います。

■今週の特徴

今週ピックアップした通貨ペアは全て EUR クロスの 4 時間足です。3 つとも EUR 買いとなっているものをピックアップしました。これは今週の EURUSD の動きが改めて上値追いをしやすい状況となってきたことが理由です。10 日にノボトニー・オーストリア中銀総裁が早期の ECB 緩和縮小について言及しました。

現在の中銀金利を -0.4% から -0.2% とすること、年内に債券購入を停止すること等、タカ派的な内容でしたが、ECB 当局は即座に同総裁の発言を個人的な見解と牽制コメントを出しています。ドラギ ECB 総裁の発言ばかり見ているとドラギ総裁は理事会メンバーの中でも超ハト派ですが、ノボトニー・オーストリア中銀総裁も理事会メンバーの一人です。

理事会メンバーの中でも同氏をはじめドイツ連銀総裁もタカ派的な発言をしていることから、目先は ECB の緩和縮小をテーマとしたニュースに目が向かいやすいのではないかとこの点が、今週のピックアップの大きな理由となりました。

■今週のピックアップ

3 番目のピックアップ GBPEUR は、通常 EURGBP 表記ですが、EUR 買いには変わりません。

(1) EURJPY の買い



チャートパターンとしては「逆ヘッドアンドショルダー」の上抜けによる買いシグナルです。オートチャート上では平行チャンネルが引かれているためわかりにくいので、ピンクの点線で逆ヘッドアンドショルダーを示しました。こうすると逆ヘッドアンドショルダーの上抜けであることがわかります。上側の青いラインがネックラインとなっています。現状でネックラインがサポートとなっているのも良い兆候です。短期的にグレーのゾーン（下端 133.09）をターゲットとする動きが 34 時間以内と指摘されています。

戦略：EURJPY の買い（シグナル点灯 4 月 10 日）執筆時点 132.195

TP=133.08、SL=129.99

（2）EURSEK の買い



チャートパターンとしては、やや拡散しているものの「下降チャンネル」の上抜けによる EUR 買いです。今回のパターンではレジスタンスラインが結構きれいに高値を結んでいるラインとなっていますし、レジスタンスを抜けたことでそのご同ラインがサポートとなっていることもわかります。短期的にグレーのゾーン（下端 10.3326）をターゲットとする動きが 7 時間以内と随分と短い期間で指摘されています。

なお、先週の DKK と異なり、残りの北欧通貨（NOK と SEK）は EUR ペグではありませんので、EUR に対してもそれなりの値動きが見られる EUR クロスとなっています。

戦略：EURSEK の買い（シグナル点灯 4 月 11 日）執筆時点 10.29639

TP=10.3326、SL=10.2518

（3）GBPEUR の売り

最初に書いた通り、通常の表記的には EURGBP の買いと EUR 買いの戦略です。



EURGBP では下降ウェッジの上抜けですが、上下対称となりますので、ここでは「上昇ウェッジ」の下抜けによる GBP 売りとなっています。今回のピックアップは全て EUR 買いであると同時にコラムで示した「サポート・レジスタンスを抜けた場合は逆にレジスタンス・サポートとなる」というチャートパターンでも共通しています。GBPEUR の売りシグナル後は、下抜けたサポートがレジスタンスとなっていることが分かります。短期的にグレーのゾーン（上端 1.1409）をターゲットとする動きが 16 時間以内と指摘されています。

戦略：GBPEUR の売り（シグナル点灯 4 月 11 日）執筆時点 1.14679

TP=1.1409、SL=1.1505

【本レポートについてのご注意】

■本レポートは、投資判断の参考となるべき情報提供のみを目的としたものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

■本レポートは、作成時点において執筆者およびサクソバンク証券（以下「当社」といいます。）が信頼できると判断した情報やデータ等に基づいて作成されていますが、執筆者および当社はその正確性、完全性等を保証するものではありません。また、本レポートに記載の情報は作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。

■本レポート内で示される意見は執筆者によるものであり、当社の考えを反映するものではありません。また、これらはあくまでも参考として申し述べたものであり、推奨を意味せず、また、いずれの記述も将来の傾向、数値、投資成果等を示唆もしくは保証するものではありません。

■お取引は、取引説明書および約款をよくお読みいただき、それらの内容をご理解のうえ、ご自身の判断と責任において行ってください。本レポートの利用により生じたいかなる損害についても、執筆者および当社は責任を負いません。

■本レポートの全部か一部かを問わず、無断での転用、複製、再配信、ウェブサイトへの投稿や掲載等を行うことはできません。